

(様式1)

学校番号 (小 **中** 38 )

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立 ( 浜北北部中 ) 学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

- (1) 学校支援活動について地域・保護者などへ呼び掛けを行い、少しでも学校と地域の繋がりに関わることができるように、委員として、主体的・積極的に努めたい。
- (2) 学校関係者評価において、必要とされる項目について前向きに取り組み、充実した協議会になるよう熟議したい。
- (3) 可能な限り行事など学校へ足を運ぶ回数を増やすことができるとよい。
- (4) 子供たちの支援活動、連携を引き続き課題とする。
- (5) 子供たちの支援活動のため、学校・地域の連携に努める。協議会に出席してもらえる先生方との意見交換も大切にしていける。委員としてできることを探していく。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ **ア** よくできた    イ   できた    ウ   あまりできなかった    エ   できなかった  
(理由)

- ・学校教育目標やそれを具体化するための恵まれた環境を設定する考えなどが熟議できた。
- ・教育目標を達成させる方策として「ASK活動」「ほくほくタイム」などの地道な取り組みを重視し「不易と流行」を意識しながらも、学校が生徒・教職員・保護者・地域とのかかわりを重視して一丸となって指導支援に努めている姿が熟議を通してイメージすることができた。
- ・学校教育目標が明確にされており、またその旨が教職員にもしっかり共有されていた。協議会としても理解を深め、熱意や実践する姿を確認することができた。
- ・学習面だけでなく、生活面においても精度の高い評価を期待したい。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ **ア** よくできた    イ   できた    ウ   あまりできなかった    エ   できなかった  
(理由)

- ・学校支援ボランティア参観では、子供たちに寄り添った支援活動ができていると実感できた。生徒会との対談の際「先生1人だけでは教わりきれない面もありとても助かっている」との声を聞き、その成果が表れているといえる。一方、地域ボランティアの確保については、今後の課題である。
- ・「CSあいさつ運動」の継続により、地域と学校のつながりが皆が見える形の支援になっていると実感する。また、生徒会からの提案により今後は生徒会と合同開催できることとなり、さらに一歩、歩み寄ることができた。今後もさらに発展させていきたい。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った **イ** 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった  
(理由)

- ・学校HP・CSだより・校内CS掲示板などの媒体を通じ、協議結果や活動の様子を情報発信することの意味は大きく、実際に保護者の間でもCSの存在を知る方が増えてきていると実感できる。今後も、継続的に行い認知度を高めていきたい。
- ・ボランティア支援を受けた生徒の活動風景や感想などを盛り込むことで、受け手の興味関心が高まる情報発信内容の充実が図られるのではないか。
- ・情報発信する担当者が限られているため、負担にならない工夫が必要だ。委員からも何か発信ができないか。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- ・学校や生徒の実態を踏まえ、残された課題の着手、あいさつ運動、学校行事、学校環境の向上など、取り組みやすく続けていける内容について、さらに一歩踏み込んだ活動ができるよう熟議する。
- ・生徒の意見も尊重し、学校と地域が一体となることができる新しい取り組みについて熟議する。